

Ⅱ 社会科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ・「内容」ごとに1～8までの大問を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ・調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「○ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
 - ・分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。
- （※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	観点別評価			
			関 意 態	思 判	技 表	知 理
1 世界の 諸地域	(1)	いろいろな地図上で赤道について理解している。				○
	(2)	さまざまな地図の図法の違いを理解し、地球の姿をとらえている。				○
	(3)	それぞれの大陸のおおよその形と地図上での位置を理解している。				○
	(4)	経度の差と時差の関係を理解し、時差を計算できる。		○		○
	(5)	さまざまな地図や地球儀の特徴を理解し、活用することができる。			○	○
2 日本の 諸地域	(1)	排他的経済水域の名称と意味を理解している。				○
	(2)	北方領土について理解している。				○
	(3)	一般的に使われる8地方区分を理解している。				○
	(4)	自然環境の特徴や特産物などから、該当する都道府県の地理的特徴をとらえることができる。		○		○
	(5)	地図とその特徴から、該当する都道府県を答えることができる。				○
3 身近な 地域の 調査	(1)	16方位を理解し、地図上で活用することができる。			○	○
	(2)	等高線を読み取り、高低差を判断することができる。		○	○	
	(3)	地図の縮尺を理解し、地図上の距離から実際の距離を計算できる。			○	
	(4)	身近な地域を調べるのにふさわしい地形図の縮尺を理解している。				○
4 都道 府県の 調査	(1)	資料を基に山梨県内の四つの市の面積と人口、人口密度について読み取ることができる。			○	
	(2)	資料を基に山梨県内の四つの市の産業の特色を読み取ることができる。			○	
	(3)	資料を基に山梨県の四つの市の特色を読み取り、隣接する都県との位置関係を踏まえて、それらの位置を判断することができる。		○	○	
	(4)	資料を基に山梨県の農業の特色を読み取り、適切に表現することができる。		○	○	
5 歴史の 流れ	(1)	古墳時代のはにわやその時代の特色を理解している。				○
	(2)	鎌倉時代から室町時代が中世という時代区分にあてはまることを理解している。				○
	(3)	西暦と世紀の関連を理解している。				○
	(4)	源頼朝が鎌倉時代に、徳川家康が江戸時代に活躍した人物であることを判断できる。		○		○
	(5)	室町時代の文化の特色を理解している。				○
6 古代 までの 日本	(1)	聖徳太子が行った政治の特色を理解している。				○
	(2)	卑弥呼が邪馬台国を支配していた時代の我が国の様子を理解している。				○
	(3)	聖武天皇の時代の文化に関係の深いものを資料から選択することができる。			○	
	(4)	紫式部が行ったことを考察し、表現することができる。		○	○	
7 中世の 日本	(1)	平清盛が活躍した時代を年表から判断できる。		○		○
	(2)	応仁の乱から戦国時代までの移り変わり、統一への歩みを理解している。				○
	(3)	中世の文化に関する資料についてさらに調べたいことを表現できる。	○		○	
	(4)	15世紀頃の琉球王国に関する資料から、中継貿易が栄えていたことを判断することができる。		○	○	
	(5)	豊臣秀吉の検地と刀狩によって、兵農分離が進んだことを理解している。				○
8 歴史の テーマ	(1) ①	江戸幕府のしくみについて、資料から大名配置の工夫を読み取ることができる。			○	○
	(1) ②	江戸幕府のしくみについて、資料から参勤交代について読み取ることができる。			○	○
	(3)	江戸幕府の経済への支配力について、資料から読み取り判断することができる。		○	○	
	(4)	江戸幕府の外交政策について理解している。				○

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全 体	◇分野別の正答率を比較すると、「地理的分野」が「歴史的分野」を10.9ポイント上回った。内容ごとの正答率では、地理的分野の「世界の地域構成」「日本の地域構成」「身近な地域の調査」「都道府県の調査」が平均正答率を上回った。 ◆評価の観点別に集計した正答率では「社会的な思考・判断」が他に比べて低かった。 ◆7問あった記述で答える設問の無解答率が全体的に高かった。
領 域 別	＜地理的分野＞ ◇地理的分野全体の正答率は65.5%で、設定通過率を2.3ポイント上回った。 ◇地理的分野の四つの内容の平均正答率はすべて60%を超えた。 ◆「身近な地域の調査」の正答率が60.8%で、全体の中で最も低かったが、その中でも地図上の数値から実際の距離を計算する設問の正答率が他に比べて低かった。 ＜歴史的分野＞ ◆歴史的分野全体の正答率は54.6%で、設定通過率を8.6ポイント下回った。 ◆「歴史のテーマ」の正答率が50.9%で全体の中で最も低かったが、その中でも江戸幕府の経済への支配力について、資料から読み取り判断する設問の正答率が他に比べて低かった。
継 続 し て 見 ら れ る 課 題	＜地理的分野＞ ◆地理的な概念を理解し活用する力が不足している。（時差の計算、地図上の距離の読み取り等） ◆統計資料を読み取り、活用する力が不足している。 ＜歴史的分野＞ ◆年代や世紀の表し方についての理解が不足している。 ◆各時代の文化の特色についての理解が不足している。 ＜地理的分野・歴史的分野共通＞ ◆2つ以上の資料を組み合わせ活用する力が不足している。（複数の統計資料、統計資料と地図、年表と写真資料、文書資料と写真資料など複数資料を組み合わせ活用する力が不足している） ◆記述で答える問題において無解答率が高い。

(2) 指導のポイント

＜地理的分野＞ ○地理的な概念を理解させるとともに、それを活用させる学習場面を多く設定する。（報告書p. 7, 9参照） ・「世界の地域構成」では、地図や地球儀を活用し、赤道や本初子午線などの基礎的・基本的な事項を繰り返し学習するとともに、経度差と時差の関係を確認する学習に多く取り組ませる。 ・「身近な地域の調査」では、様々な縮尺の地図を活用し、地図活用に関する基礎的・基本的な内容を学習させる。また、大縮尺の地図を使ってフィールドワークを実施し、地図を読み取る能力を高める。 ○具体的な資料を利用して、統計資料や地図等の見方や活用の技能（地理的資料活用のスキル）を習得するための学習場面を設定し、継続して実施する。（報告書p. 11参照） ・「都道府県の調査」で埼玉県の調査を中心に、統計資料や地図等の見方や活用の技能（スキル）の定着を図る。 ＜歴史的分野＞ ○歴史的分野の学習に必要な基礎的な技能（歴史学習のスキル）を習得するための学習場面を設定し、継続して実施する。（報告書p. 11参照） ・「歴史の流れ」の学習で、時代区分の方法、年表の読み方・書き方などの、歴史学習の基礎となる技能（スキル）の定着を図る。 ○年表活用と「時代」の特色をまとめる学習を充実させる。（報告書p. 13, 15参照） ・単元ごとの学習のはじめと終わりに、その「時代」の通史学習における位置を確認し、特にその単元の終わりに、その時代の特色をまとめる学習に取り組ませる。 ・「古代から近世」などのように、期間を長くして大まかな年表を作成し、歴史の流れを確認させる。 ・その時代の文化の特色とその背景を関連付けて学習する場面を増やす。 ＜地理的分野・歴史的分野共通＞ ○資料を読み取り、自分で考え解釈し、自分の言葉で説明する活動を充実させる。（報告書p. 13参照） ・地理的分野、歴史的分野それぞれにおいて、資料を読み取るだけでなく、それを自分なりに解釈し、それをもとに自分の意見や考えをレポート等にまとめる活動に取り組み、自分の言葉で表現する学習に対する意欲を高める。 ○二つ以上の統計資料、統計資料と地図、年表資料と文書資料、文章資料と写真資料などの複数の資料を組み合わせ解答を導き出す応用的な問題により多く取り組ませる。（報告書p. 15参照）
--

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22
地理的分野	57	49	61.1	65.5
歴史的分野	55	55	57.4	54.6

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1	(1)	地図1、地図2、地図3、図1を見て正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 Aの線は赤道といい、経度を測る基準になる線。 2 Aの線は本初子午線といい、経度を測る基準になる線。 3 Aの線は赤道といい、緯度を測る基準になる線。 4 Aの線は本初子午線といい、緯度を測る基準になる線。	3	1		66.7	1.4	75
	(2)	地図2の中で表されている南極大陸を黒く塗る。	略	略		86.0	3.5	80
	(3)	地図1・地図2・地図3を参考にして正しく説明しているものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 日本から南東の方角に行くと北アメリカ大陸がある。 2 大西洋とインド洋に囲まれた大陸はアフリカ大陸である。 3 もっとも南にある大陸は南アメリカ大陸である。 4 オーストラリア大陸はユーラシア大陸よりも大きい。	2	1 3		69.3	2.0	75
	(4)	地図1上に示したカナダのバンクーバー（北緯49° 西経123°）で行われた、2010年冬季オリンピック期間中に、現地時間の2月17日午後5時から実施された競技を、日本でテレビの生中継を見る際に注意すべきこととして正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 経度の差が258°なのでおよそ17時間の時差があるので、競技は日本標準時間の2月18日午前10時から始まる。 2 経度の差が258°なのでおよそ9時間の時差があるので、競技は日本標準時間の2月18日の午後3時から始まる。 3 経度の差が258°なのでおよそ17時間の時差があるので、競技は日本標準時間の2月16日午前10時から始まる。 4 経度の差が258°なのでおよそ9時間の時差があるので、競技は日本標準時間の2月16日の午後3時から始まる。	1	2 3		41.3	3.1	50
	(5)	太郎君が考えた、地図1、地図2、地図3の世界地図と図1の地球儀の特徴とその使い方として適していると考えられるものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 地図1は日本からの方位を調べるのに適している。 2 地図2は大陸の形を調べるのに適している。 3 地図3は陸地の大きさを比べるのに適している。 4 地球儀は細かい場所を調べるのに適している。	3	4 1		52.8	2.0	60

(単位：%)

1 世界の地域構成

結果の概要

- (1) 地球上の位置を緯度と経度を用いて表せる力が身に付いているかを見る設問である。正答率は66.7%。
1を選択している誤答が多いが、緯度と経度の言葉の理解が求められる。
- (2) 様々な目的でつくられた地図の特徴を踏まえた上で、世界の大陸について地球上の位置を理解し、それを表現できるかを見る設問である。正答率は86.0%。
- (3) 六大陸と三大洋の地球上の位置とすがたについての理解を見る設問である。正答率は69.3%。
- (4) 経度の差と時差の関係を理解しているかを見る設問である。正答率は41.3%。地球の自転の動きと経度の差から時差を求める概念を理解していることが求められる。特に、この設問では日付をまたいで時差の計算をする必要があるため、正答率が50%とした設定通過率より低くなったと思われる。
- (5) 目的に応じた様々な地図や地球儀の特徴を理解しているかを見る設問である。正答率は52.8%。4を選択している誤答が多いが、問題文中の「細かい」という表現を誤って受け取ったと判断できる。

指導のポイント

○ 世界の地域構成を大観させるための地球儀と地図を活用した学習場面の設定

- (1) 地球儀と地図を活用し、世界のすがたを具体的に理解させる。
 - ①世界の地域構成を理解するためには、地球のすがたを理解する必要がある。生徒は、メルカトル図法やミラー図法に影響された世界観をもっていることが多い。地球儀を積極的に活用した学習を行い、本来の地球のすがたを立体的に理解させる必要がある。
 - ②緯線と経線、大陸と海洋のおおよその位置関係とすがた、国々の位置などを、地球儀と様々な種類の地図を比較する中で理解させる。例えば、地図上での大陸の大きさや形、緯線と経線の表現の仕方など。
 - ③世界の地域構成をより具体的に理解させるために、大まかな世界地図を描かせる。その際、例えば赤道と本初子午線を引かせるなどして緯度と経度にも着目させる。実際の地図と見比べさせて、できるだけ反復して学習させることで定着を図る。
- (2) 世界の国々に興味・関心をもたせる学習内容を工夫する。
 - ①世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、日本との違いに着目させながら学ばせる。その際、新聞やニュース、テレビなどで話題になっている社会問題やイベント、出来事を題材にするなど、できるだけ実生活に即したテーマを設定することで生徒の興味・関心をもたせる工夫をする。また、小学校高学年で習得した世界に関する知識や、我が国と深いつながりを持つ国を調べる作業的、体験的な学習の成果を生かした学習内容の工夫も必要である。
 - ②世界のすがたを大観させ、世界の国々の位置関係、地理的特徴を理解させる中で、時差の概念を学ばせる。時差を求める際には、地球の自転の動きと日付変更線の関係、本初子午線の役割を他教科との連携を図りつつ理解させる。

2 日本の地域構成

結果の概要

- (1) 経済水域の名称と意味の理解を見る設問である。正答率は74%。今年度は正答を選択肢から解答させたため正答率が上がり、設定通過率を上回った。
- (2) 日本の固有の領土である北方領土が理解できているかを見る設問である。正答率は53.3%。無解答率は23.6%。誤答例としては択捉島が多く、北方領土をはじめとする領域をめぐる問題の理解が不十分であると考えられる。
- (3) 日本の地方区分についての理解を見る設問である。正答率は86.6%。設定通過率を上回る高い正答率だった。
- (4) 日本の諸地域について、九州地方南部の産業に関する特色を理解できているかを見る設問である。正答率は72.4%。自然的条件が農業の形態にどのように影響するかを理解できていることが求められる。
- (5) 地図とその都道府県について述べた特徴から、該当する都道府県名を選択できるかを見る設問である。正答率は86.4%。解答を求めるに至るまで3つの判断材料があるため、比較的容易に選択できたと判断できる。

2	(1)	地図1で着色されている部分の水域の名称として正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 領海 2 経済水域 3 公海 4 大陸棚	2	1		74.0	1.2	65
	(2)	我が国固有の領土であるが、現在、ロシア連邦によって不法に占拠されているため、日本がロシア連邦に返還を求めている、地図1の点線で囲まれているAの部分の領域の名称を答える。	北方領土	択捉島		53.3	23.6	60
	(3)	日本の8地方区分のうちの一つを示している、地図2の地方区分の名称として正しいものを、次の1から4の中で一つ選ぶ。 1 近畿地方 2 中部地方 3 九州地方 4 東北地方	3	1		86.6	1.5	80
	(4)	地図3の地域について調べ、特徴をまとめた説明文の[A]と[B]のそれぞれにあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。	4	2 3		72.4	1.5	70
	(5)	地図2の地方に属する都道府県について述べた資料1の説明や地図3の形にあてはまる都道府県名を、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 福岡県 2 新潟県 3 鹿児島県 4 福島県	3	1		86.4	1.5	80
3	(1)	長野市役所、長野県庁、善光寺、長野駅の順番で回った場合に、それぞれの場所の方位を正しく述べているものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 長野駅から見て市役所は北西の方角にある。 2 市役所から見て県庁はおおよそ東の方角にある。 3 県庁から見て、善光寺は西の方角にある。 4 善光寺から見て、長野駅はおおよそ南の方角にある。	4	1		79.6	2.1	70
	(2)	長野駅と善光寺を比べて、標高が高いのはどちらですか。地形図から読み取って答える。	善光寺	長野駅		79.5	4.9	70
	(3)	地図上で約6cmだった、犀川にかかっている丹波島橋と長野大橋の実際の距離は約何mになるか答える。	約1500m	150m		40.1	9.8	50
	(4)	学校周辺の身近な地域をより詳しく調査する場合、もっとも活用しやすいと考えられる縮尺を、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 2500分の1 2 25000分の1 3 20万分の1 4 50万分の1	1	2		44.2	2.5	55
4	(1)	資料1の山梨県内の四つの市の面積と人口に関する情報を読み取って述べた文として正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 四つの市の中で一番人口の多いa市は、県の人口の約3分の1を占め、他の三市の人口の合計より多い。 2 四つの市の中で一番人口が少ないb市は、面積は二番目に広い。 3 四つの市の中で一番面積の大きいc市は、県の面積の約3分の1を占め、他の三市の面積の合計より広い。 4 四つの市の中で一番面積が小さいd市は、人口は二番目に少ない。	2	1		73.4	3.0	65
	(2)	資料1の山梨県内の四つの市の産業の特色に関する情報を読み取って述べた文として誤っているものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 a市は、四つの市の中で、製造品出荷額等が一番多いが、農業産出額は一番少ない。 2 b市は、四つの市の中で、製造品出荷額等が一番少ないが、ぶどう収穫量は二番目に多い。 3 c市は、四つの市の中で、製造品出荷額等、農業産出額ともに二番目に多い。 4 d市は、四つの市の中で、農業産出額、ぶどう収穫量ともに一番多い。	3	1		69.8	3.1	70

指導のポイント

○ 日本の国土、領域と地域的特色を理解させるための地図を活用した学習場面の設定

- (1) 日本の国土の特色や領域をめぐる問題を理解させるための学習内容を工夫する。
 - 海洋国家である日本の国土を、世界の国々と比較する中でとらえさせ、国境の意味を学ばせる。その際、我が国が抱える領域をめぐる問題にも着目させる。地図、新聞記事、映像資料などを活用し、より身近な問題であることを自覚させ、理解を深める。例えば、校内LANを活用してICT機器を使用し、電子媒体で地図を投影したり、映像資料を示したりして学習内容に対する意欲や関心を高める。
- (2) 日本の地域区分と地域的特色について、作業的活動を通して理解させる。
 - ①小学校で学習した内容を整理・活用しながら、都道府県の名称と都道府県庁所在地名を学習させる。その際、単に覚えるだけの学習活動にならないようにする。例えば、自分が描いた日本の略地図に都道府県名と都道府県庁所在地名を書き込んだり、「海に面しているかどうか」などでテーマごとに都道府県を分けてとらえさせる。また、方策を変えながら反復させることも必要である。
 - ②日本の地域的特色について、その地域の特色ある事象や事柄が他の地理的事象とどのようにかかわり合っているかを生徒が調べ、追求する学習を通して理解させる。その際、その地域の特色に応じた適切な課題を絞って設定し、様々な資料を活用して地域的特色を考察させる。

3 身近な地域の調査

結果の概要

- (1) 地形図の読み取りについて、方位を正しく理解できているかを見る設問である。正答率は79.6%。
- (2) 地形図の読み取りについて、標高の表し方について正しく理解しているかを見る設問である。正答率は79.5%。水準点を読み取ることが求められる。
- (3) 地形図の読み取りについて、縮尺を理解しているかを見る設問である。正答率は40.1%。誤答例として150mと解答している例が多くあった。cmからmに単位を変換する際の誤りが多かったと考えられる。
- (4) 身近な地域の調査をする際に最適な縮尺の地図を選択できるかを見る設問である。正答率は44.2%。2を選択している誤答が多い。調査の規模に適した縮尺の大きさについて理解できていないことが確認できる。

指導のポイント

○ 身近な地域の調査を通して、地域の特色や課題を考察するための技能を高める学習場面の設定

- (1) 身近な地域の特色や課題を見いだすための観察や調査を通して思考、判断、表現力を高める。
 - ①地理的事象に関する適切な課題を設定した上でフィールドワークを行い、地図を読み取り活用する力や地理的な見方や考え方を培う。また、聞き取り調査やアンケート調査を行うなどして身近な地域に対する理解を深め、体験的、作業的な学習への関心、意欲を向上させる。
 - ②フィールドワークの後、課題に対する仮説の設定、調査、考察、意見交換、発表という学習展開の手順や方法を学ばせる中で思考力、判断力、表現力の向上を図る。
- (2) 身近な地域の課題を追求するために必要な技能を高める。
 - ①2500分の1等大縮尺の地図を積極的に活用し、読図するために必要な知識・技能を身に付けさせる。
 - ②身近な地域の調査で手に入れた地形図や統計、画像などの様々な資料のうち、課題を追求する際に必要なものを選択して活用し、分析した結果をまとめる方法についての知識・技能を身に付けさせる。

4 都道府県の調査

結果の概要

- (1) 山梨県内の四つの市と、県全体の統計資料から面積と人口に関する情報を読み取ることができるかを見る問題である。正答率は73.4%。統計資料から面積と人口についての項目を選び、選択肢に照らし合わせて正確に読み取ることが求められる。
- (2) 山梨県内の四つの市と、県全体の統計資料から山梨県の産業に関する情報を読み取ることができるかを見る問題である。正答率は69.8%。統計資料から産業に関わる項目を見つけ、当てはまるものを読み取ることが求められる。
- (3) 山梨県内の四つの市の位置を、山梨県に関するさまざまな統計資料と山梨県と隣接する県との位置関係をもとに考察することができるかを見る設問である。正答率は50.1%。都道府県の位置関係が理解できていないと判断できる。
- (4) 山梨県の農業の特色をまとめた文中の空欄にあてはまる語句を、複数の資料から導き出すことができるかを見る設問である。正答率は53.6%。複数の資料を読み取る際、数値の大小は気付いているが、そこから果樹栽培という語句を用いた解答に結び付けられない生徒が多いと判断できる。

4	(3)	白地図中のⅠからⅣは、資料1の山梨県内の四つの市のいずれかの位置を示している。資料1と各市について説明した次の文を参考にして、四つの市の位置の組み合わせとして適切なものを、表中の1から4の中から一つ選ぶ。 ・a市は、四つの市の中で一番人口が多く、長野県と接している。 ・b市は、四つの市の中で一番人口が少なく、埼玉県と接している。 ・c市は、四つの市の中で一番面積が大きく、長野県と接している。 ・d市は、四つの市の中で一番面積が小さく、他の県とは接していない。	3	1 2		50.1	8.0	55
	(4)	資料2、資料3から、山梨県の農業の特色についてまとめた文の、[] にあてはまる語句を書く。	果樹栽培がさかんである	略		53.6	18.9	60
5	(1)	資料にもっとも関係の深い時代を、年表中の▼印で示したAからDの中から一つ選ぶ。	C	B		70.5	1.5	65
	(2)	社会のしくみの特徴によって時代を区分したとき、年表中の ◀→ の期間の時代のあらわし方として正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 古代 2 中世 3 近世 4 近代	2	3		70.5	1.2	65
	(3)	年表中の「奈良」時代が始まったと考えられる、平城京が移された710年は何世紀か答える。	8世紀	7世紀		49.2	7.5	55
	(4)	年表中の「政治上で重要な役割を担った人物」の項目中の㊦と㊧の時期に活躍した人物の組み合わせとして正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 ㊦源頼朝 ㊧徳川家康 2 ㊦源頼朝 ㊧足利尊氏 3 ㊦藤原道長 ㊧足利尊氏 4 ㊦藤原道長 ㊧徳川家康	1	4		64.5	1.8	65
	(5)	資料に関連が深い年表中「文化の特色」の項目中の㊨の時期の文化の特色について正しく述べているものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 貴族や僧を中心とした伝統文化の上に、武士の素朴で力強い気風があらわれた文化 2 唐の文化をふまえながらも、日本の生活感情に合った貴族の文化 3 南蛮文化の影響を受け、戦国大名や大商人を担い手とした豪華で雄大な文化 4 武家文化に公家文化がまじり合い、中国の禅宗文化の影響を受けた文化	4	1 2		29.7	2.2	50
6	(1)	1班の調べた「聖徳太子」のおこなった政治の説明として誤っているものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 天皇を中心とする政治制度を整えようとした。 2 東北地方の蝦夷に対して大軍を送り、朝廷の支配を広げようとした。 3 仏教を広め、政治に仏教の考え方を取り入れようとした。 4 政権の中で続いた豪族同士の争いをなくそうとした。	2	3		54.1	1.4	60

指導のポイント

○ 様々な資料を読み取り、活用する技能（スキル）を身に付けさせる学習場面の設定

- (1) 統計資料を中心に、目的にあった資料の選び方、読み取り方の指導を充実させる。
 - ①身近な地域調べなどの観察や調査の活動などを学習計画に位置付けることで、様々な統計資料に触れさせ統計資料の読み取り方を学ばせる。
 - ②設定した課題を追求するために必要な統計資料を取捨選択させて、分析、考察した結果を統計地図にまとめさせる活動等に取り組ませることにより、統計資料を活用する技能と表現力を高める。
- (2) 日本の様々な地域について、地理的諸条件から産業に関する地域的特色を理解させる。

地域的特色ある産業は、自然的条件や社会的条件に関連付けられていると考えられる。日本の様々な地域を学習する過程で、地域的特色ある産業と地理的事象との関係を考察させ、意見交換を行いまとめることで、普遍性と特殊性に気付かせる。

5 歴史の流れ

結果の概要

- (1) 写真資料がはにわであることを理解し、はにわと最も関係の深い時代を選ぶことができるかを見る設問である。正答率については70.5%。古墳とはにわの関係について正しい理解が求められる。
- (2) 年表中の←→の期間〔鎌倉時代から室町時代〕の時代区分が理解できているかを見る設問である。正答率は70.5%。昨年度は、中世と近世という組み合わせを選択する設問であったが、今年度は、一つの時代についての設問であったので正答率が上昇したと考えられる。
- (3) 710年が何世紀かを理解できているかを見る設問である。正答率が49.2%。7世紀という誤答が多く、昨年度に引き続き、西暦と世紀の関係を正しく理解できていない生徒が多いと判断できる。
- (4) 年表から鎌倉時代と江戸時代に活躍した二人の人物〔源頼朝、徳川家康〕を選び、正しく組み合わせることができるかを見る設問である。正答率は64.5%。鎌倉時代と江戸時代に活躍した二人の人物名を正しく組み合わせることが求められる。
- (5) 年表中の室町時代の文化の特色について理解しているかを見る設問である。正答率は29.7%。昨年度、安土桃山時代の文化の特色を選択する設問の正答率は53.4%であった。時代によって文化の特色の理解に差があるが各時代の文化の特色を正しく理解できていない生徒が多いと判断できる。

指導のポイント

○ 歴史学習の基礎となる技能（スキル）を高めるための学習場面の設定

- (1) 歴史学習の導入において、技能（スキル）の基本的な内容を指導する。
 - ①小学校での社会科学習と中学校の歴史的分野の学習の円滑な接続を図るために、歴史学習の導入として、我が国の歴史について関心のある主題を設定し、まとめる作業的な学習を設定する。
 - ②年代の表し方や時代区分など歴史学習の基礎となる技能（スキル）を作業的な学習を中心に体験的に習得させ、それらの技能を活用した作品づくり・発表・まとめなどを行う。
- (2) 歴史学習の導入以外の単元においても、技能（スキル）の定着を図る指導を継続して行う。
 - ①現在学習しているのは何時代で、歴史全体の中でどこに当たるかを教科書等の年表を利用して毎時間確認し、大まかな歴史の流れをつかませる。
 - ②年代の表し方や時代の呼び方などは、授業の中で継続的・計画的に復習し、技能の定着を図る。

歴史学習の導入で習得させたい基礎的な技能（スキル）とは・・・

<年代の表し方>

・西暦（紀元前、紀元後） ・世紀（紀元前、紀元後） ・日本の年号

<時代区分の方法>

・社会のしくみの特徴による時代区分の呼び方 「古代」「中世」「近世」「近代」など

・政治の中心等に着目した時代の呼び方とそれに関連する呼び方

「平安時代」「鎌倉時代」「江戸時代」など・・・政治の中心

「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」など・・・特色ある文化

<年表の読み方、書き方>

6	(2)	2班の調べた「卑弥呼」が活躍していた頃の日本のようすとして正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 多くの小国が争う中、30あまりの国をしたがえた邪馬台国があらわれた。 2 天智天皇没後、あとしづを巡る壬申の乱がおこった。 3 大王は、九州から東北地方南部に至る各地の豪族を従えた。 4 唐の都長安にならって、奈良に平城京がつくられた。	1	3		84.2	1.3	75
	(3)	3班の調べた「聖武天皇」ともっとも関係の深いものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 平等院鳳凰堂 2 姫路城 3 東大寺正倉院 4 大仙古墳	3	1 2		62.6	1.9	60
	(4)	4班の調べた「紫式部」がおこなったこととしてふさわしい文を、資料を参考にして に書き入れ、カードを完成させる。	かな文字を使って「源氏物語」を書いた。	源氏物語を書いた(かな文字が抜けている)		27.2	23.0	50
7	(1)	平清盛について述べた文を読み、平清盛が活躍した時代としてふさわしいものを、年表中の ア から エ の中から一つ選ぶ。	ア	イ		56.4	2.4	60
	(2)	次の1から4の文の中から、年表中の エ の時期にあてはまるものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 幕府の力が衰えて戦国大名による争いが続いた後、やがて統一がすすめられた時期 2 初めて武家独自の法律を定めた幕府が、西日本各地にも力をおよぼすようになった時期 3 将軍が朝廷にも力をおよぼし、守護大名たちの勢力もおさえて、政治が安定した時期 4 武士が貴族の政治への関わりを深め、その中からはじめて政権をにぎる者も現れた時期	1	3		52.0	3.7	60
	(3)	まとめ1の内容とまとめ2の「分かったこと」を参考に、新聞中の見出しの にあてはまる語句を答える。	織田信長の鉄砲隊大勝利!	略		47.2	19.0	60
	(4)	ひろし君のグループは、年表中の ウ の時期の海外との関係を調べていて見つけた、資料3をもとに、琉球王国についてまとめた下の文の にあてはまる語句を答える。	中継貿易(貿易)	略		45.9	28.4	55
	(5)	「豊臣秀吉」について調べた次の資料4と資料5に関連する政策の結果を述べた文として正しいものを、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 農民に口分田が与えられ、重い税が課せられた。 2 武士と農民の身分の区別がはっきりした。 3 有力な豪族が周囲の農民を従えて支配するようになった。 4 開墾に励む農民が増え、全国の私有地が増加した。	2	1		65.0	4.7	65

6 古代までの日本

結果の概要

- (1) 聖徳太子が行った政治の説明として誤っているものを選ぶことができるかを見る設問である。正答率は54.1%。十七条の憲法などの語句は知っていても、聖徳太子が行った政治の内容についての理解が不十分な生徒が多いと判断できる。
- (2) 卑弥呼が活躍していた頃のわが国の様子を理解しているかを見る設問である。正答率は84.2%。卑弥呼と邪馬台国との関係について正しく理解できていると判断できる。
- (3) 聖武天皇の時代の文化に関係の深い資料を選ぶことができるかを見る設問である。正答率は62.6%。その時代の文化と人物を結びつけて理解していることが求められる。
- (4) 資料を参考にして紫式部が行ったことを考察し、記述することができるかを見る設問である。正答率は27.2%と全問題中最も低く、資料を参考にできていない解答が多かった。また、無解答率も23.0%で、記述式の問題に取り組む意欲が低い、あるいは記述する練習が不足していることが考えられる。

指導のポイント

1 資料を読み取り、自分で考え解釈し、自分の言葉で説明する学習場面の充実

- (1) 授業の中で文書資料や写真資料、統計資料、地図資料など様々な資料を活用し、その時代の特色をとらえさせるようにする。
- (2) 資料から読み取ったことを自分の言葉で説明する学習活動を多く設定する。
- (3) 調べたり考えたりしたことを、発表したり、意見交換したりする学習活動を行う。

2 文化に関する資料とその時代背景を関連付ける学習場面の充実

- (1) 文化の指導に当たっては、語句や人物名だけでなく、写真や掛け図など視覚的な教材を活用して指導する。
- (2) 文化に関する資料と、その文化の時代背景が関連付けられるよう、文化の担い手や時代背景が顕著に表れている代表的な事例を取り上げるとともに、年表を活用した指導の充実を心掛ける。
- (3) 身近な地域とかかわりのある文化財を取り上げ、文化に対する興味・関心を高めるようにする。

7 中世の日本

結果の概要

- (1) 平清盛が活躍した時代を年表から選ぶことができるかを見る設問である。正答率は56.4%。年表と人物についての説明を結び付けて考えることが求められる。
- (2) 年表中の「応仁の乱」をきっかけとして戦国大名が出現し、織田信長・豊臣秀吉による統一事業を経て、関ヶ原の戦いにいたるまでの歴史の流れを正しく理解しているかを見る設問である。正答率は52.0%。歴史の流れをとらえることが十分にできていないと判断できる。
- (3) まとめ1の資料、分かったこと、見出しの関連を参考にして、まとめ2にあてはまる解答を記述できるかを見る設問である。正答率は47.2%で、無解答率は19%。資料を組み合わせ活用し、見出しを適切な言葉で表現することができていない解答が多かった。
- (4) 15世紀頃の琉球王国に関する資料から、中継貿易が栄えていたことを理解しているかを見る設問である。正答率は45.9%。昨年度は、中継貿易が栄えた理由を考えさせたため正答率が32.2%であったが、設問を変えたことにより正答率が上昇した。しかし、無解答率が28.4%と最も高く、資料をもとに考えたことを記述する力、または、記述式の問題に取り組む意欲のどちらかが不十分あると考えられる。
- (5) 文書資料と絵画資料を読み取り、検地と刀狩によって兵農分離が進んだことが理解できるかどうかを見る設問である。正答率は65%。二つの資料を組み合わせ考えることが求められる。

8	(1) ①	資料1を参考に、発表文中の〔 A 〕にあてはまる語句を、次の1から4の中から一つ選ぶ。 1 御三家 2 親藩 3 譜代大名 4 外様大名	4	1 3		67.1	4.4	70
	(1) ②	資料2を参考に、発表文中の〔 B 〕にあてはまる制度名を答える。	参勤交代	武家 諸法度		46.1	24.9	60
	(2)	資料をもとに発表するために準備した、下の1から4の説明文の中から誤っているものを一つ選ぶ。 1 幕府の領地は、直轄領と旗本領を合わせて全国の石高の約4分の1をしめていた。 2 農民に対しては、年貢をきびしく取り立て、幕府の財政を安定させた。 3 政治や経済上で重要な大阪などの都市は、幕府が直接支配した。 4 江戸を中心とする五街道を整備し、物流の活性化のため、江戸への出入りも自由にした。	4	3		37.5	7.3	50
	(3)	年表をもとにして、3班がまとめた次の文の()にあてはまる語句を答える。	鎖国	略		52.7	26.6	60

(単位：%)

指導のポイント

1 長い期間の年表を活用し、歴史の流れをとらえさせる学習活動の充実

- (1) 授業の導入やまとめ、単元の導入やまとめにおいて教科書等の年表を活用し、年表に親しませるとともに年表の見方の技能を高めていく。
- (2) 複数の時代にまたがる年表を活用し、各時代の代表的な人物・時代背景・写真資料などを活用し、関連付けて理解させる。
- (3) 各時代の特色や時代背景を「古代」「中世」「近世」など大きな流れの中でとらえさせ、まとめる学習を繰り返し行う。
- (4) テーマに応じて年表づくりなどの学習活動を取り入れ時代の流れを大観させたり、テーマごとに年表をつくり比較させたりして、年表の活用方法を身に付けさせる。

2 各時代の特色をまとめる学習場面の設定

- (1) 各時代の学習の初めに、生徒がもっているその時代のイメージを表現させたり、前の時代との違いを予想させたりするなど、その時代の特色の究明に向けた課題意識を育成する。
- (2) 一つの時代の学習が終わるごとに、その時代を振り返らせ、各時代の変化や歴史の流れについて、学習した内容を活用してその時代を大観し、言葉や図などで表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。

3 地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件に着目させることを促すために、地図等を活用する。

8 歴史のテーマ

結果の概要

- (1) ①江戸幕府のしくみについて、文書資料と地図資料から大名の配置の工夫を読み取れるかを見る設問である。正答率は67.1%。歴史的分野の問題で正解を導き出す場合でも、地図の読み取りなど地理的スキルを活用できることが求められている。
②江戸幕府のしくみについて文書資料から考察し、参勤交代について読み取れるかを見る設問である。正答率は46.1%。資料を読み取って記述する問題形式のためか、無解答率が24.9%と高かった。
- (2) 江戸幕府の経済への支配力について、資料から読み取り判断できるかを見る設問である。多くの資料を読み取らなければならないこともあり、正答率は37.5%であった。複数の資料を読み取って判断する力が不十分であると考えられる。
- (3) 江戸幕府の外交政策を理解しているかを見る設問である。正答率は52.7%。無答率が26.6%と高く、年表などの資料を参考にして考え、適切な言葉で解答する力が不十分であると判断できる。

指導のポイント

1 複数の資料を組み合わせ、読み取れることを整理しまとめる学習の充実

- (1) 一つの資料だけでなく、文書資料、写真資料、年表、地図、統計資料など複数の資料を読み取らせ、多面的・多角的に考察させる学習を行う。
- (2) 読み取った情報を整理し、歴史的事項と関連付け、文章などで表現する学習活動を取り入れる。

2 テーマにそった課題に取り組み、時代の特色をとらえる学習活動の充実

- (1) 単元の学習の柱となるようなテーマを設定し、課題の解決が単元全体の理解につながるようにする。
- (2) 調べたり考えたりしたことを、文章や図、年表などにまとめて表現させる学習活動を取り入れる。